

T D A テキスタイルスクール大阪 後期第4回
— デザインビジネス講座 —

- 日 時:1月24日(土)
- 場 所:大阪化学繊維会館
- テーマ:「中国・韓国のデザイン事情」
- 講 師:臼井高雄(T-S O F T 代表)
- ナビゲーター:山内 誠・尾原久永

《講義内容》

世界の工場といわれる中国、日本に近づきつつある韓国。両国のデザイン事情が伺えた貴重な体験でした。講師は両国に日本で制作されたテキスタイルデザインやファッション、インテリアのトレンド資料の販売を手がけられており、ビジネスの現状がリアルに語られた。韓国では多くのデザイナー予備軍が育っており、近々日本の驚異になるであろう。中国でインテリアテキスタイルの図案が300～400ドルで購入されていることは、少なから



ず驚きだった。テキスタイルデザインの価値が認知されつつあることを物語っているように感じる。同時に私たちにとって、新しいビジネスのチャンスと市場性があることをも実感した。

中国メーカーのデザイン購入目的が、ヨーロッパ輸出を念頭に置いたものであることは認識を新たにした。ヨーロッパのデザイン動向に敏感な事情も理解できる。まだ国内販売にデザイン力が効力を発揮できる場面は少なそうである。

ただすでに中国でも100人規模のデザインスタジオも出現しており、CP設備も導入されて制作が始まっているとのこと。制作のレベルはまだ低いそうであるが、油断できない存在に早晩なるに違いない。

しかし一方では知的所有権の意識は想像以上に希薄で、デザインなどの模倣やブランドの盗用が頻繁に行われる実状も披露された。こうした意識変革にはまだまだ時間がかかると思われる。

概要説明の後、ナビゲーターを交えた質疑応答が行われた。参加者からは様々な質問があり、中国・韓国のデザイン事情に対する関心の高さをうかがわせた。

質問では

Q:中国企業の勤務デザイナーの地位はどのようなものか?

A:まだまだ低く、デザイン企画は緒についたところ。あくまで企業のオーナーが決裁権を持ち、地位としては補助役のいろあいが濃い。

Q:デザイン販売のきっかけはどのようにしてできたか?

A:海外で開催される展示会のデザインブースに出展がきっかけ。

上海、北京の展示会はデザインの売り込みの機会になる。

Q:ビジネス上のトラブルは?代金支払いでのトラブルが多い。

A:支払いはドルで現場決済がトラブル回避の近道。受注によるデザイン制作はトラブルが多い。

など出された。

本日のセミナーに参加して、これからは海外を見据えた広い視野が必要なことを痛感した。ただビジネスの様子は理解できたものの、デザインやカラーの傾向や、消費志向の情報などデザイン面での話が聞きたかった。再度セミナーを開催してほしい。

(レポート 鈴木 洋行)